平成22 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4570300550		
法人名	株式会社　悠隆		
事業所名	グループホーム「牧水苑」	ユニット名	3F
所在地	宮崎県延岡市北小路8－10		
自己評価作成日	平成22年7月1日	評価結果市町村受理日	平成22年9月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570300550&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成22年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者と共に日々の生活を過ごしていく中、10年目を迎えるにあたってこのままで良いのかと悩み続けた結果、全職員の共通な想いやケアの方向性が見えず、まずはしっかりと理念を共有することから取り組みを始めた。話し合いの中、共通したキーワードは職員の入居者に対する熱い想いであった。既存のホテルをそのまま利用していることもありハード面での不便さはあるものの、入居者と職員の良い関係が保たれ、どこからか聞こえる歌声や笑い声の中でゆったりとした時間が流れている。地域との繋がりは不十分ではあるが、その方の生まれ育った故郷訪問や思い出巡りをしながら入居者一人ひとりの希望に沿えるような試みを繰り返している。今回新たに理念を構築し、職員共通の想いが鮮明となったことで、より一層「ありのまま、あなたらしさ」を支えるお手伝いが出来るのではないでしょうか。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

今年、10年目を迎え管理者、ホーム長、職員が一丸となり新たな理念「ありのままのあなたらしさを大切に」を十分な話し合いの下、利用者のことを考え作成し実践している。ホーム長の熱い思いが職員にも浸透し、利用者の「その人らしさ」を十分に考え行動し、思いをくみ取り実践している。利用者においても自分のペースでゆったりとそれぞれの時間が流れ生活していることを伺い知ることが出来た。地域に対しても「広げよう地域の輪」という理念を掲げ、利用者に日常的な外出支援を実行している。運営推進会議などでも十分な議論を行い、より良いホームとなるよう努めている。災害対策においても職員間や消防署ともに十分な話し合いがなされ、今後も重点的に取り組んでいこうという姿勢が伺えるホームである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 3F 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域と共存していくホーム、地域の中で暮らしていく方向の理念を作り共有している。	新たな介護理念として「ありのままのあなたらしさを大切に」、また、地域密着型の理念として「広げよう地域の輪」を作成し、各ユニットにも掲げている。職員は理念を共有し、実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事・イベントへの参加は当然のことながら、学生ボランティアの受け入れ、近所の商店からの食材の配達などを通して、日々様々な交流を行っている。	自治会に加入し、近隣の住民や商店とのつながりがあり、地域の行事にも参加している。職員も地域とのつながりを意識し、日々交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて発信する機会はないものの、一番身近な存在である家族に対して認知症への理解、支援方法を伝え続けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された意見は、会議録を作成し全職員に伝達するとともに、助言いただいた内容に対しては改善に取り組んでいる。取り組みの結果は、次回の会議で報告している。	運営推進会議では、議題も多数上がり活発な意見交換が行われている。助言もあり、改善が必要な場合は職員間で話し合い、サービスの向上に生かされている。会議録は全職員に回覧し伝達されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接訪問し連絡・相談（申込み・制度など）を行い、助言・指導を受けている。また、事故等においては早急に報告を行っている。	ヒヤリ・ハット事例の報告や相談等、日常的に連絡を取っている。法制度においての助言・指導等の協力を仰ぎ、ケアサービスに生かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全管理委員会及び勉強会において、具体的な行為を理解し、身体拘束のないケアを実践している。また、身体拘束廃止宣言を掲げ、ご家族へも理解をいただいている。	身体拘束廃止宣言を行い、家族にも周知し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。安全管理委員会も設置され、勉強会も行い、職員も具体的な取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	安全管理委員会及び勉強会において、関連法について周知しており防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 3F 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会あんしんサポートセンターにて制度について説明を受け、必要に応じて活用できるよう整備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約は入居者の身体状態の悪化や家族希望による住み替え時が多く、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の会話の中で不満や要望を拾い上げ、その都度改善に向けての取り組みを行い、希望に沿えるよう対応している。	職員は普段の会話から不満や要望を拾い上げるように努めている。家族会も設置され、意見等は随時改善に向けての取り組みを行っている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議や職員会により上げられた意見や提案を運営に反映させている。	ユニット会議、職員会議は毎月行われ、職員の意見の拾い上げが出来ており、運営に関する意見の反映がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定例の運営会議、法令遵守委員会の中で、職場環境・条件の整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育・研修体系の整備がなされ、研修の機会が確保されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、ネットワーク作り、勉強会や交流に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 3F 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査・訪問調査を行い、本人と直接会話することにより、信頼関係を築くきっかけ作りとなるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの期間の中で、少しでも多くの関わりが持てるよう、密に連絡を取り合いながら、不安の軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意向に沿って必要としているサービスを見極めながら、サービスの内容・支援方法を検討している。また、早急に入居が必要な場合、関連ホームの空き状況を調べたり、他施設の利用が出来るよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できなくなった部分はさりげなく手を差し伸べ、逆に知恵をいただいたりしながら、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を呼びかけたり、ホームに来ていただく機会作りをしながら、一緒に本人を支えていけるよう働きかけを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「故郷訪問」の機会を増やし、思い出に触れたり馴染みの方との再会を喜ぶ場面が多くみられる。友人の面会も少しずつ増えてきている。	職員は理念の「その人らしさ」を実践し、「故郷訪問」を行い、利用者のなじみの関係への支援を行っている。この支援が日々のケアでの関係作りにも生かされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースである食堂では、それぞれ利用者同士の関係が保たれるような配置の工夫をしている。また、仲の良い入居者同士の居室の行き来も多い。		

自己	外部	項　目	自己評価 3F 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先を訪ね、様子を伺ったり電話にて現在の暮らしぶりなどを尋ね繋がりを保っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から聞かれる希望を吸い上げ、職員同士で共有しながら意向に沿えるような働きかけを行っている。	職員は、利用者一人ひとりの情報を把握し、会話を傾聴することにより、本人本位になるよう意向の把握に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族面会時での聞き取りや、日常会話から情報を収集し、暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録・支援経過への記載、体温表により総合的に把握することが出来る。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議・カンファレンスを開き、それぞれの意見やアイデアを元に介護計画を作成している。	家族から随時要望を聞き取り、カンファレンスでは職員間での日々の気づきの話し合いが行われ、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の書式を変更し、状況・対応・結果がより具体的に分かりやすくなり、介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設機能を活かし、住み替えや病院との連携がとりやすい。また、外出や理美容等、要望に沿った支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 3F 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに商店街があるので買物に出かけている。市の中心部にあるので各催し物にも参加がしやすい。しかし地域にはまだ活用できる資源はあると思うので情報収集し活用するようにしたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医との連携は当然のことながら、入居後も馴染みのあるかかりつけ医の受診をすすめ、状況に応じて通院介助を行うなど、適切な受診支援を行っている。	掛かりつけ医のいる利用者もあり、必要に応じて受診支援も行われている。協力医との連携も図られ、訪問診療も行われており、適切な受診支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置がある為、即座に情報や気付きを提供したり相談することができ早期に対応が可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーを提供し、退院時には事前に調査に伺い関係者との密な情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に向けたあり方や方針について整備している。状況の変化によって本人や家族、医師・職員などを交えた話し合いや方針の共有ができる。	重度化や終末期に向けた方針が立てられている。同意書も作成されており、本人や家族、医師の話し合いが十分に行われ、状況の変化に応じた方針が共有されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルにて周知している為、応急手当を行うことができるが、定期的な訓練は行っていない。日中・夜間緊急時の連絡体制を整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー・自動火災報知機の設置により、火災に対しての安全を確保している。年2回の防災訓練を実施しているが、地域への協力体制の整備については、取り組みを続けている。	年2回の防災訓練が行われ、スプリンクラー・火災報知器を設置し、火災に対しての安全は確保されている。地域の消防署との話し合いも行われ、地域住民や消防団の協力も得られる取り組みがなされている。	事業所の構造上、地震災害等での不安はぬぐい去れない状況であり、職員も常に苦慮している。今後も継続した災害対策への取り組みが期待される。

自己	外部	項　目	自己評価 3F 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の念を持ち、礼儀をわきまえた対応を心掛けている。日々のケアにおいて、特に注意を払っている。	言葉遣いにおいては日々注意を払い、毎月話し合いも行われている。日々のケアでは尊敬の念を持ち、一人ひとりへの対応に気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外部研修・勉強会により「自己決定」の大切さを学び、これを活かし本人を尊重し全てをまず「聴く」ことから始め、自己決定の支援の実践を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先の流れを見直し続け、利用者のペースに合わせた寄り添うケアが実現しつつある。会話の中から希望や思いを把握し、それに沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は本人の望む店を利用し、外出が困難であれば訪問理容を利用することができる。日頃から、好みの服を選択していただき、お洒落にも気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けまで、入居者の出来ることを共に行っている。食事は、全職員が入居者と同じテーブルに付き、和やかな雰囲気の中でゆったりと一緒に楽しんでいる。	利用者のペースに合わせた食事が行われている。さりげない介助や食事形態も状態に合わせたものが作られている。職員も同じテーブルで一緒に楽しんでおり、後片づけも利用者の状態に合わせ一緒に行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や栄養状態が低下傾向にある場合には分食や捕食をすすめたり、こまめな水分補給が出来るよう飲み物を手元に準備しておくなど、それぞれに合った支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア及び週1回の義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 3F 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄パターンをつかみ、事前に誘導や声掛けをすることにより、自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの状態を把握し、排泄チェック表の利用により排泄パターンに合わせた誘導が行われ、自立に向けた支援が出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や運動の参加をすすめたり、繊維食品・乳製品などの献立やおやつの工夫に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週間予定として、週3回の入浴を設定しているが、入居者に合わせた柔軟な支援を行っている。	週3回の設定がされているが、希望によりいつでも入浴が可能である。拒否される利用者にも声掛けを行い、利用者に合わせた柔軟な支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体を動かし生活リズムを整え安眠できるよう支援している。夜間、眠れない方がいる場合、対話をしたり飲み物を出すなどし眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方が届き次第内容を把握し何度も確認をしながら、服薬の支援とその後の症状の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去を知ることで役割となることや、楽しみ・気晴らしになることを見つけ、必要時には家族に協力をいただきながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者から上げられた希望は、職員間で共有し話し合いを行いながら、その都度実行している。また、行事を通して他の入居者や家族と共に出掛けたり、状況によっては個別に支援している。	利用者からの希望にはできるだけ沿えるよう職員間で情報を共有し、日常的な外出支援が行われている。「故郷訪問」をはじめ近所の商店、なじみの場所巡りなどの支援が日常的に行われている。	

自己	外部	項　目	自己評価 3F 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるがそれぞれ所持していただき、買い物等で使う機会がもてるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて取り次ぎをするなど個別に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの季節の飾り物や、思い出のある写真等を貼り、明るい雰囲気と季節感を出せるような工夫をしている。共用スペースでは特に、不快や混乱を招くことのないよう常に配慮している。	共用空間には利用者の写真や季節感のある利用者手作りの飾り物があり、和やかに過ごせる工夫がされていた。また、ソファーも設置されゆったりと居心地よく過ごせるような配慮がされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や食堂にソファーやテーブルを置き、「たまり場」として過ごせる場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口には居室の目印となるよう、それぞれ好みののれんをかけ、居室は馴染みの物に囲まれ居心地良く過ごせるような工夫をしている。	各居室にはのれんなどを掛け、目印となるような工夫がなされている。神棚や思い出の写真なども持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう工夫がされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・洗面所・一部の居室入り口には手摺りを設置しているが、その他にも段差がありそれぞれ注意しながら過ごしている。段差には目立つテープを貼るなどして工夫している。		